



ことのは
Grief care network
GUNMA

2022 年度 報告書

グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」事業

特定非営利活動法人キッズバレイ
令和 5 年 3 月 31 日

2022 年度 報告書（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

特定非営利法人キッズバレイ
グリーフケア・ネットワークぐんま『ことのは』

以下の通り、グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」の桐生・みどり地域を拠点とした活動を報告いたします。

【広める】

アウトカム（当初設定）グリーフケアが地域福祉として当たり前になる。

【当初設定】 講演会の開催 1 回（11 月） ■アウトプット：参加者 150 名	【実績】 2023 年 3 月 29 日（水）講演会実施 ■アウトプット：参加者約 400 名
	桐生美喜仁文化会館シルクホールでの講演会を実施。 グリーフケア特別講演会『命の授業』 ○講師のゴルゴ松本さんは、少年院でボランティア講演を 2011 年から始め、漢字を読み解きながら、生きる意味を若者に語る講演を全国で続けている。「命の授業」をテーマに、魂のこもった熱い授業を展開していただいた。 春休みということで、ご家族での参加が多かった。様々な地域から参加があり、参加アンケートには「講演会を聞いて自分を見直せたきがした」「グリーフケアという言葉を知れただけでも参加してよかった」とうれしい言葉もあった。 ○講演に参加された方へは、ことのはの情報を希望されている方も多く、今後つながりができるよう情報をお届けしていく。
【当初設定】 リーフレットの設置 ■アウトプット：130 か所	【実績】 引き続き、リーフレット・リーフレット立てを、グリーフを抱えた方が手に取れると想定される各事業所へ配布。今年度の活動に合わせて、沼田や安中方面での事業所と積極的に連携をし、配布を行った。今まで設置して頂いている事業所へも、予定表を入れ替えの際に声がけさせて頂いている。 リーフレットへは予定表を挟み込み、HP・Facebook を更新し、必要な方へ届けられるよう整備。新たに LINE・Instagram を配信。グリーフを抱えている方に届くよう、「家族の悲しみの違い」「時間が経っても悲しんでいい」などテーマに沿って投稿。また、スケジュールを定期的に配信することで、興味を持ってくださった方に届くよう配慮している。 ■アウトプット：リーフレット設置箇所 約 120 箇所
	設置希望の各事業所へ持参・送付。 ○リーフレット 2 種類 当事者用・サポーター用 当事者用：印刷済 9,003 部、うち配布済み 5284 部（残 3719） サポーター用：印刷済 8,668 部、うち配布済み 5918 部（残 2750） ○リーフレット立て 2 種類 当事者用：印刷済 245 個、うち配布済み 126 個（残 119 個） サポーター用：印刷済 255 個、うち配布済み 127 個（残 128 個） ○予定表作成（上半期・下半期）印刷 ○ホームページ URL https://cotonoha.info/ ○Facebook URL https://www.facebook.com/cotonoha.info ○Instagram https://www.instagram.com/cotonoha_griefcare/ ○LINE リットリンク https://lin.ee/wQKj4o6

アウトカムに対する評価

連携先（病院・施設等）よりのご紹介で、ご参加される方がいらした。
また、NHK ほっとぐんまの取材を、ことのはのファシリテーターが受けたことで、問い合わせなどの反響がとて大きかった。
ことのはのホームページは「グリーフケア」と検索すると、比較的上位の検索結果に出てくるようになったことから、リーフレット設置も含めて、必要な方に届くよう今後も発信を継続して行っていく。

【ケアの場】

アウトカム（当初設定）

・地域にグリーフケアが根付くことで当事者が自分のペースでグリーフと向き合い、適応のプロセスをたどることができる。

【当初設定】 ➢ことのはカフェの実施（合計 13 回） ・大切な人を亡くされた方のためのグリーフケア座談会 2 回（桐生）、2 回（太田、前橋）、2 回（高崎、沼田） ・対象者別グリーフケア座談会（お子さん・パートナー・親） 3 回（桐生）、2 回（太田、前橋）、2 回（高崎、沼田） ➢ワークショップ 1 回×3 地域以上 ➢子どものためのグリーフケア 1 回×2 地域 ➢オープンデイ 隔月（桐生、前橋） ➢個別相談 隔月（桐生） ■アウトプット ・グリーフケア座談会＆ワークショップ参加者 150 名	【実績】 時期と開催場所を見直し実施した。 ・大切な人を亡くされた方 ことのはカフェ 11 回 ことのはカフェ 11 回 23 名 （2022 年 4 月@桐生／6 月@沼田／8 月@太田／9 月：@高崎@桐生／10 月@沼田／11 月@安中／12 月@桐生／2023 年 2 月@高崎／2023 年 3 月@桐生） ・お子さんを亡くした親 ことのはカフェ 1 回（2022 年 5 月@前橋）2 名 ・男性限定 ことのはカフェ 1 回（2022 年 7 月@桐生）1 名 ・パートナーを亡くされた方 ことのはカフェ 1 回（2023 年 1 月@太田）2 名 ・ペットロス ことのはカフェ 1 回（2022 年 12 月）1 名 ・ワークショップ 2 回 （2022 年 5 月 29 日@桐生／2022 年 7 月 4 日@前橋）6 名 ・こどものためのグリーフケア 2 回 参加者合計 21 名（2022 年 8 月 20 日@安中）大人 4 名／子ども 6 名 合計 10 名・ （2022 年 11 月 19 日@前橋）大人 4 名、子ども 7 名 合計 11 名 ・ことのはオープンデイ（手作りサロン） 6 回 （2022 年 5 月 25 日@桐生／2022 年 6 月 22 日@前橋／2022 年 8 月 24 日@桐生） （今後予定 2022 年 9 月 28 日@前橋） 合計 18 名 ・個別相談：コトモ対面・電話相談 5 名（男性 3 名・女性 2 名） 対面（2021 年 4 月 3 日／2022 年 4 月 6 日／2021 年 7 月 4 日：2 名） 電話（2022 年 7 月 28 日） ・ことのはダイアログ～坊主ナイト～ 19 名 （2022 年 4 月／2022 年 7 月／2022 年 11 月） ■アウトプット 参加者 98 名 （大切な人を亡くされた方：23 名、お子さんを亡くされた方：2 名、男性限定：1 名、パートナーを亡くされた方：2 名、ワークショップ：6 名、こどものためのグリーフケア：21 名、オープンデイ：18 名、ことのはダイアログ 19 名、ペットロス 1 名、個別相談：5 名）
 	○地域での団体さんの協力のもと、沼田にてことのはカフェを初開催。参加人数は 1 名であったが、サポーターも一緒に話に加わり穏やかに話していただいた。開催の告知をみて、何名かサポート希望のご連絡があり、心強く感じる。 ○男性だけでのお話を希望の声があったため、ファシリテーターも男性にお願いしことのはカフェを開催。当日は不参加の方がいたため、参加者は 1 名であったが、ゆっくりとお話が出来た。「普段話せないことも話せ、気持ちの整理ができた」と感想をいただいた。 ○個別相談はご希望があった際に対応。対面より電話の方が「顔が見えない分、正直に話せる」という方もいらした。「立場的になかなか周囲に話せない」と言って、電話口で涙ながらにお話頂くこともあった。 ○こどものグリーフケアにおいては、安中にある Pony Park Cuddle にて「ホースセラピー体験」を行った。ホースセラピーは馬の体温を感じたり、ふれあいにより、心と身体両方に効果のある活動といわれている。今までご参加いただいた親、兄弟を亡くされたお子さんへお声がけをし、夏休みに「親子での交流」が自然とできるよう開催した。 当日は、当事者でもあるサポーターのお子さんも含め開催。お子さん人数 6 名・大人は 4 名。参加したお子さんの年齢は 5 歳から 14 歳。午前中は親子と一緒に、ポニーとのふれあい・乗馬・お世話をした。参加者同士の緊張をほぐすため、腹話術のパペットを使える保育士さんに自己紹介などをサポート頂いた。午後は大人はグリーフ「悲嘆」についてのお話の時間をゆっくりと取り、お子さんには「かなしくなったらやってみて」「きみがしらないひみつの三人」の、えほんを読み聞かせをした。自然豊かななかゆったりと、ポニーや犬、ねずみ番の猫とふれあい、こどもたちのキラキラとした笑顔がまぶしかった。桐生からは遠方の開催であったため、参加希望の方の中に小さなお子さんを抱え運転が難しい方もいた。何か対策を考えられたら良かったと反省点も残る。

アウトカムに対する評価

参加者によって、グリーフの抱え方や辛さを感じる期間などはそれぞれ違う。命日や記念日反応など、大きく気持ちが揺れる時期があることも含めて、その方のペースでグリーフと向き合えるよう、参加者へ声がけしながら伴走していると評価できる。



こどものグリーフケアにて
パペットと話しながら自己紹介
緊張していた顔が、ホッと和らいた。



2022 年 8 月

オープンデーでは、「金継ぎ体験」を行った。当日は絵付けをした器に金を蒔く体験。欠けた器をお持ちいただき、実際に修復する相談の時間を設けた。参加者は亡くした大切な方から譲り受けた器を直せることで、ホッとしている様子だった。欠けた器を直すことで、心も一緒になおしていく、そんなふうを感じた。

【人材育成】

・県内各地でグリーフケアに携わりたい支援者の研修制度が整い、グリーフケアを伝えられる人が各地にいる。
支援者同士の連携ができるようになり、困難なケースなどにも寄り添える体制が整う。

【当初設定】	【実績】
・ファシリテーターの養成 ■ アウトプット ・ファシリテーター 20 名 ・ボランティア 30 名 ・グリーフケアサポーター入門講座 & 説明会 ・グリーフケア支援者のための講座 実施 2 回・	○サポーターとして活動を希望の方へ、基礎講座・養成講座を受講していただく。 ■ アウトプット ○ファシリテーター：4 名、ファシリテーター候補：4 名（計 8 名） ○ボランティア：8 名 ○グリーフケアサポーター入門講座 & 説明会 個別で対応（2 名）
	受講 ・グリーフ専門士協会 オンラインによる受講 →2022 年 6 月（2 名受講） ・グリーフ専門士協会 ベーシック講座受講 →2022 年 6 月（1 名受講） ・日本グリーフケア協会 2 級講座受講 →2022 年 1 月（4 名受講） ・サポーター入門講座 →2022 年 10 月（2 名受講）

参加者からサポーターになりたいとお声がけいただくことも多くなってきた。
入門講座を受けたことをきっかけに、ご自身のグリーフをより深く話すことで、ご自身のグリーフを見つめるきっかけになった方もいる。同じような境遇の方と安心して話せる場・つながれる場・グリーフの気持ちを共有できる場を心掛けながら活動していく。
各地域での連携団体さんと、協力しながら「グリーフケア」を周知している。

Q 3. イベント全体について、ご意見がございましたらご記入ください。

今回グリーフケアという言葉を知りましたが、私の周りにも引きこもりや鬱で悩んでいる人が結構います。自分もいつそういう状態になってしまうかも正直なところでは不安です。

でもその時はピンと来なくても思いつく瞬間が気持ちを救える薬になる事があるんじゃないかと思っています。様々な方向からの話を聞いてみたいと思いました。これからの時代とても必要な活動だと思います。

グリーフについてもっと詳しく知りたいと思いました。

時間に關してはもう少しだけ遅めの 6時半～7時頃の方が出てきやすいかなと思いました。

テーマあった事忘れて思うままに話してしまいました。

【基盤形成】

【当初設定】 協力団体を募る ■アウトプット ・協力団体 18 社	【実績】 ■アウトプット ○協力団体（賛助会員） 2 社 ○個人（賛助会員） 4 名 ○連携団体 8 社 ○ご寄付 3 名 ○引き続き、桐生、みどり地区を中心にリーフレット設置を依頼し、協力団体を募った。 ○積極的に、連携できるよう他団体へ声がけを行った。
	○前橋赤十字病院様よりご依頼を受け、2022 年 7 月に『グリーフケアを身近に感じる』～お子さんを亡くした方に何と声をかけますか～と題してオンラインによる研修会にて、ファシリテーター3 名にてお話をさせて頂いた。 研修会には、児童虐待防止に関わる方、医療者の方はもちろん、自治体の方など様々な方が参加されていた。研修会をきっかけに、お問い合わせをいただき、リーフレット設置につながった場もある。 ○すてっぷぐんま様研修会 2022 年 10 月 被害者ご遺族の方へどのように寄り添うか、活動の現場からグリーフケアをお伝えした。 ○館林市就労支援事業 講座 2022 年 12 月 「社会復帰のためのグリーフケア～大切な存在を失った方々へ～」を開催。
コロナ禍において、対面での説明が難しい状況が続いていたが、今年度は少しずつ訪問している。今後も引き続き、『このことは』の活動への協力をお願いしていきたい。	

メディア等 掲載



「前橋赤十字病院様」研修会ポスター



22.4.19 NHK『ほっとぐんま 630』取材



受配表示（事務局 コトモ受付）